

第2章 有明海・八代海等の環境等の状況

第2章では平成28年度委員会報告以降における有明海・八代海等の環境の状況を、平成28年度委員会報告の第3章の構成に沿って整理した。なお、平成28年度委員会報告では、再生目標を踏まえ、生態系の構成要素又は水産資源として重要と考えられる生物について4項目を取り上げることとしたが、そのうち、ノリ養殖(赤潮による被害)は「2.8 赤潮」に、ベントス、有用二枚貝、ノリ養殖(生産量)、魚類等は「2.9 生物」にその状況等を整理した。

なお、平成28年度委員会報告以降において、新たなデータや知見等が得られた情報を中心に整理を行っており、平成28年度委員会報告と同じデータや知見等については記載を割愛するとともに、経年的に大きな変化傾向がみられていない図表や参考情報となる図表等は資料編に記載した。

第2章の構成と記載事項を表2-1に示す。

表 2-1 第2章の構成と記載事項

構成	記載事項
2.1 汚濁負荷	汚濁負荷量の状況
2.2 河川からの土砂流入	大雨等の状況、河川流量の状況、近年の豪雨による土砂の発生
2.3 潮汐・潮流	潮位の状況、潮流の状況
2.4 水質	水質環境基準達成率、水質の動向
2.5 底質	底質の分布、経年変化等
2.6 貧酸素水塊	底層溶存酸素量、貧酸素水塊の発生状況、経年変化等、気候変動が与える影響
2.7 藻場・干潟等	藻場・干潟の分布・面積、海洋ごみの状況等
2.8 赤潮	赤潮の発生状況・特徴、漁業(ノリ養殖、魚類養殖)被害の状況等
2.9 生物	固有種・希少種等、ベントス、有用二枚貝、魚類、漁業・養殖業生産量

注) 主なもの以外の図表、関係機関の行った事業はケーススタディとして資料編に記載